

学校行事の変遷

連綿と引き継がれてきた特色ある附属長岡中学校の学校行事について概観します。創立当時に設定された2大行事は、「臨海教育」と「修学旅行」でした。

■ 臨海教育

臨海教育は最初高浜や鯨波で、昭和28年からは石地海岸で実施されました。しばらくは、全校生徒が参加し、水泳訓練と集団生活訓練を受けました。2泊3日の指導は全教官で当たったほか教育実習生や卒業生が10名程度助手に駆けつけることも伝統となっていました。水泳訓練最終日は、2～3kmの遠泳を実施しました。毎年、80%以上の生徒が挑戦、完泳しました。この臨海教育は昭和54年まで続きました。その後、「総合合宿訓練」と名を変え、弥彦登山と野積海岸水泳訓練に変化、そして、昭和57年からは尾瀬合宿に移りました。尾瀬合宿は平成元年、修学旅行が2年生に移って4年目に終了しました。平成11年から再び尾瀬合宿が1年生で復活し、自然とのふれあいや集団活動での好ましい人間関係の育成を目指しました。「研修旅行」（1学年）の新設による行事の見直しを図り、平成17年度で中止になりました。



■ 修学旅行

創立以来十数年間の修学旅行は、1年生が伊香保、水上、妙高・野尻湖あるいは会津方面と変化しましたが、2年生・3年生は志賀高原、佐渡と一貫していました。昭和39年、3年生は日光、那須、松島と旅行し、3泊4日の日光・東北方面の修学旅行に移りました。昭和58年から



方面が京都・奈良となりました。昭和61年から修学旅行は2年生3月に行い、平成8年からは広島平和学習の旅へと変化しました。そして、平成11年から現在は沖縄平和学習となって現在も続いています。

■ スキー合宿

スキー合宿も伝統的な行事でした。1年生は毎年、悠久山・長岡市営・五日町・六日町・浦佐などのスキー場で訓練を受けた後、池の平（後に岩原）で合宿を行いました。平成15年度は山本山高原スキー場を会場に日帰りで実施しましたが、現在はスキー合宿は行われておりません。

■ 幼・小・中三校舎合同行事

三校舎合同行事は、「運動会」です。幼稚園のかわいい幼児から中学3年生までが同一行事に参加します。同じキャンパスに暮らす子どもたちのための合同行事は避難訓練、研究会の同時開催や混合分科会の設定、そして日常教育活動における連携へと拡大しています。現在、幼小中一貫の12年間を見通した附属長岡校舎の教育活動を通して、自立的、自律的な自己形成を志向する「主体的人間」の育成を目指したカリキュラム開発を行っています。

